

事業主の皆様へ

長崎労働基準監督署

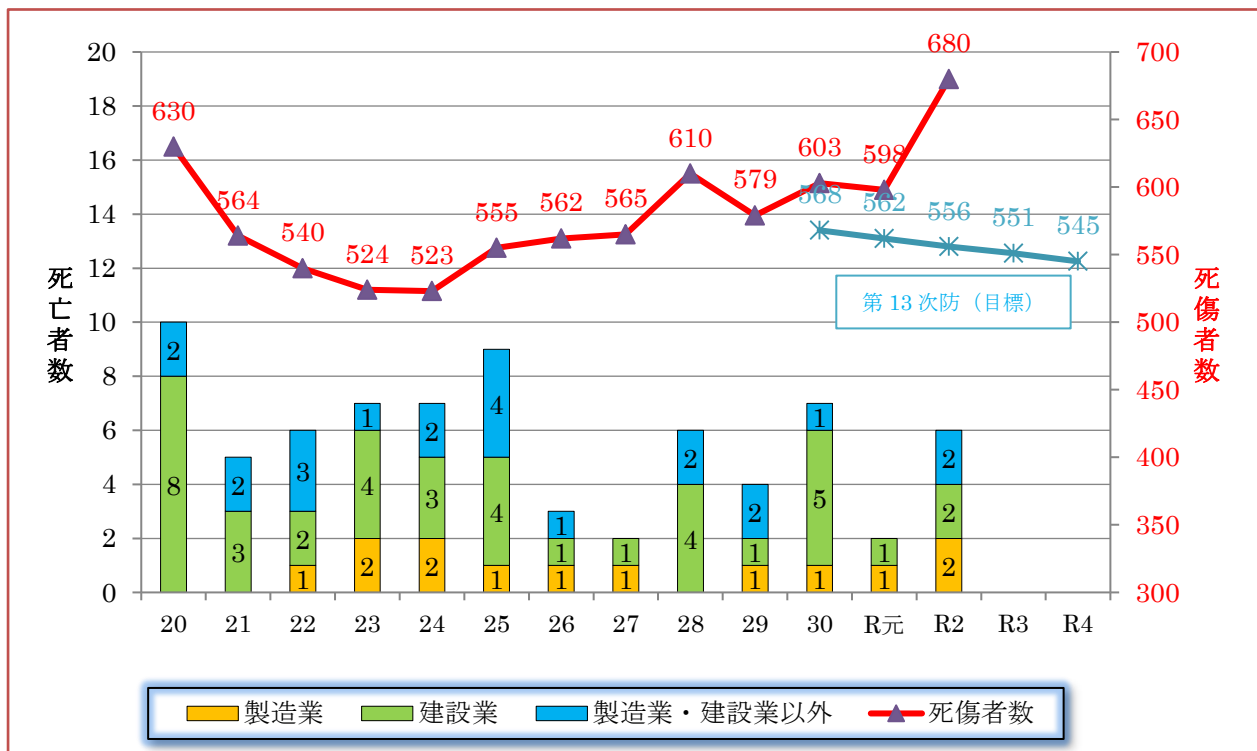
令和2年における労働災害発生状況（確定）について

平素は労働災害の防止にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、令和2年の長崎労働基準監督署管内の労働災害による死亡者数は6人と前年（2人）より増加し、休業4日以上之死傷者数についても680人と前年（598人）より大幅に増加しました。

業種別では、第三次産業における労働災害が413件（前年344件）と全産業の6割を占め、中でも保健衛生業及び商業において多く発生しています。

つきましては、当署管内の労働災害発生状況を取りまとめましたので、事業場における労働災害防止活動にご活用頂きますようお願い致します。



死亡災害発生状況

令和2年の当署管内の労働災害による死亡者数は6人（製造業2人、建設業2人、運輸交通業1人、その他の業種1人）で、うち4人が「墜落・転落」災害により亡くなっています。

また、労働災害ではないものの、建設作業において「中小事業主」の足場からの墜落死亡災害が1件発生しています。

休業4日以上之死傷災害発生状況

休業4日以上之死傷災害は680人と昨年（598人）より大きく増加し、その6割が第三次産業で発生しています。

業種別では保健衛生業が156人と最も多く、次に商業106人、製造業100人、建設業77人、運輸交通業55人、清掃業41人、接客娯楽業37人の順となっており、保健衛生業においては前年比で26%の増加となりました。

また、清掃業においては41人と全産業に占める割合は少ないものの、前年（24人）の1.7倍に増加しています。

事故の型による死傷災害発生状況

つまづき、滑りなどによる「転倒」災害は139人（前年比-17人）と事故の型の中では最も多く、次に高所からの「墜落・転落」127人（前年比+19人）、腰痛などの「動作の反動・無理な動作」105人（前年比+14人）となっています。

「転倒」災害は、業種別では保健衛生業での発生が39人と最も多く、次に商業35人、製造業12人、清掃業11人となっており、第三次産業での発生が目立ちます。

「墜落・転落」災害は、建設業35人、運輸交通業22人、製造業17人、商業11人となっており、はしご・脚立、階段からの転落災害が多く発生しています。

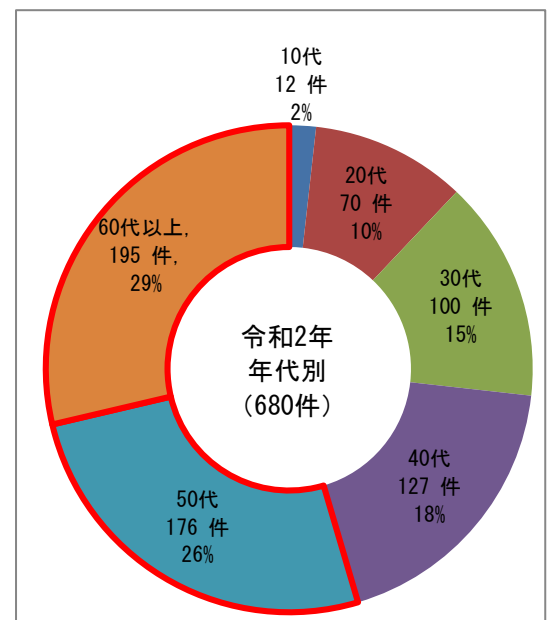
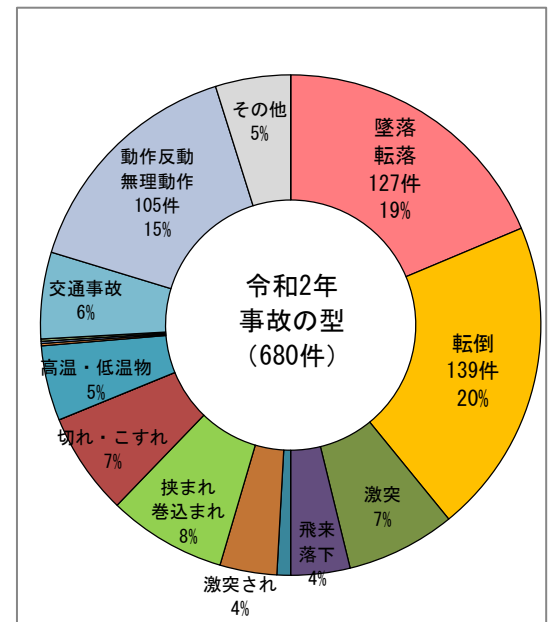
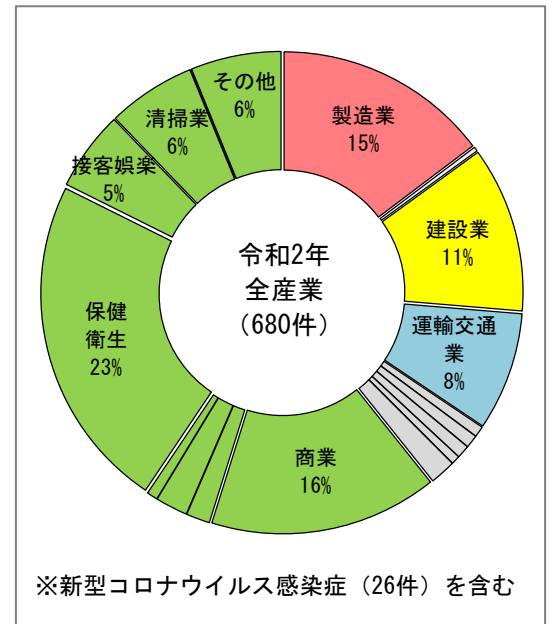
「動作の反動・無理な動作」による災害の約半数（105人中52人）は保健衛生業において発生しています。

年代別による死傷災害発生状況

50歳以上（高年齢労働者）の労働災害の割合は全体の5割以上を占めています。

50歳以上の災害（371件）の28%が「転倒災害」であり、また「転倒災害」（139件）に占める高年齢労働者の割合は74%と高く、労働災害の防止を検討する上では高年齢労働者にとって働きやすい職場環境の改善は無視できないものとなっています。

40歳代以下では腰痛を中心とする「動作の反動・無理な動作」による災害が19%と最も多く、次に「墜落・転落」18%、「転倒」12%となっています。



製造業の災害発生状況

令和2年の製造業における死亡者数は、造船業においてタンク内への墜落災害と、ガス溶断中の作業服への引火により2人が亡くなっています。

製造業における休業4日以上死傷災害は、業種別では造船業が36人と最も多く、次に食料品製造業26人、金属製品製造業15人、窯業・土石製品製造業6人となっており、年代別では40歳代以下の災害が53%と他の業種と比べ製造業においては比較的若い年代において災害が発生しています。

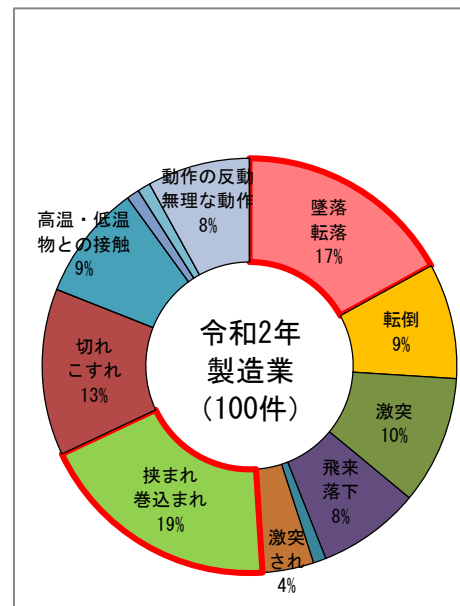
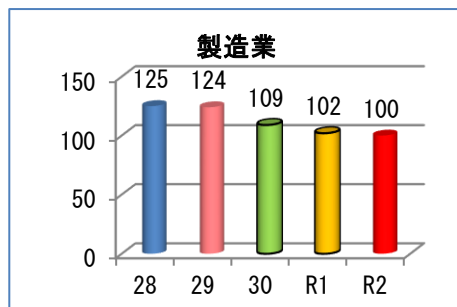
事故の型では「挟まれ・巻き込まれ」災害が19%と最も多く、コンベアの端部・ローラー部、各種機械装置の歯車・チェーンなどの動力伝導部、機械の清掃・調整中の可動部への挟まれ・巻き込まれ災害が発生しています。



「墜落・転落」災害では、脚立・はしご、トラック、足場などからの墜落・転落が散見されます。



「切れ・こすれ」災害では、加工機械による災害も発生していますが、用具、工具、金属材料などの取扱中に手を負傷する災害も散見されます。



建設業の災害発生状況

令和2年の建設業における死亡災害は、はしご道からの墜落及び足場からの墜落により2人が亡くなっています。

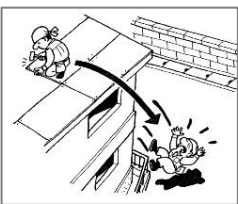
建設業における休業4日以上死傷災害は、前年より11件増加し、業種別では土木工事15人、建築工事49人、その他の建設業13人で、6割以上が建築工事において発生しています。



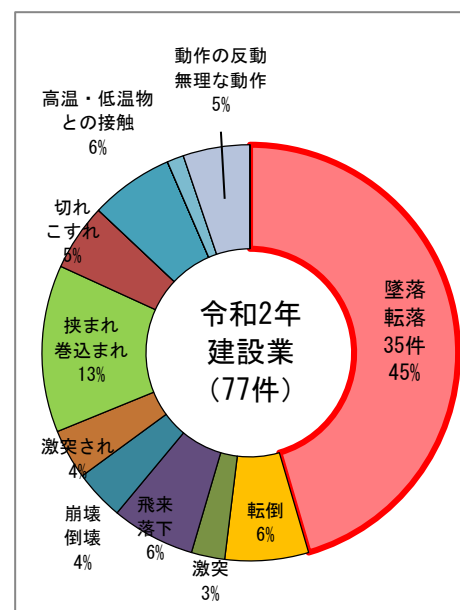
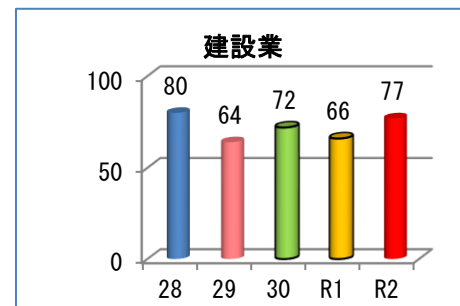
事故の型では、「墜落・転落」による災害が45%と最も多く、他の業種と比べて「墜落・転落」災害の割合が高い状況にあります。



「墜落・転落」災害を起因物別にみると「脚立・はしご」10件、「足場」9件、建築物・構築物5件、屋根等で4件発生しており、脚立等の安全な使用、足場の整備、墜落防止措置が求められます。



「挟まれ・巻き込まれ」による災害では、車両系建設機械、移動式クレーン、動力運搬機械が関係する災害が散見されます。



第三次産業の災害発生状況

保健衛生業

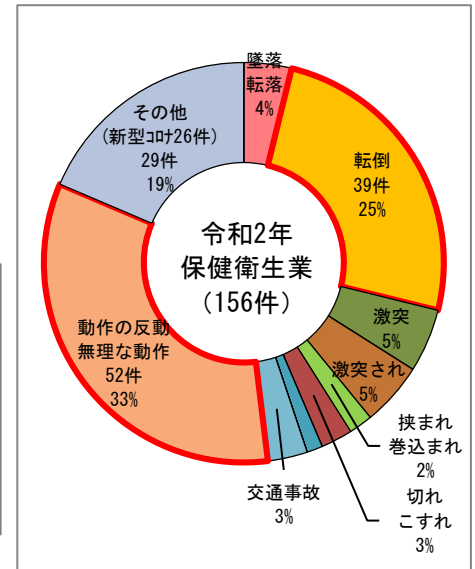
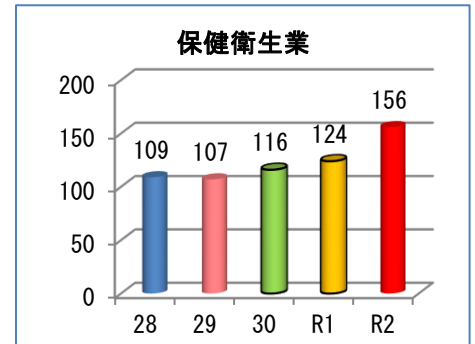
保健衛生業における休業4日以上死傷災害は年々増加しており、令和2年は156人と前年比26%の増加となっています。

業種別では、医療保健業において73人（前年37人）、社会福祉施設83人（前年86人）となっており、医療保健業においては前年の約2倍に増加しました。

事故の型では、腰痛などの「動作の反動・無理な動作」が52人（33%）と最も多く、次に「転倒」災害が39人（25%）、「その他（新型コロナウイルス感染症を含む）」が29人（19%）となっています。

「転倒」災害では50歳代以上の発生が77%と、高い年代での発生が顕著です。

「動作の反動・無理な動作」では年代による発症の差は殆どなく、多くの事例で介助や生活支援での無理な動作が関係しており、年代に関係なく身体への作業負荷の軽減対策をどのように進めてゆくかが重要と考えます。



商業

令和2年の商業における休業4日以上死傷災害は106件で、商業の労働災害も増加傾向にあります。

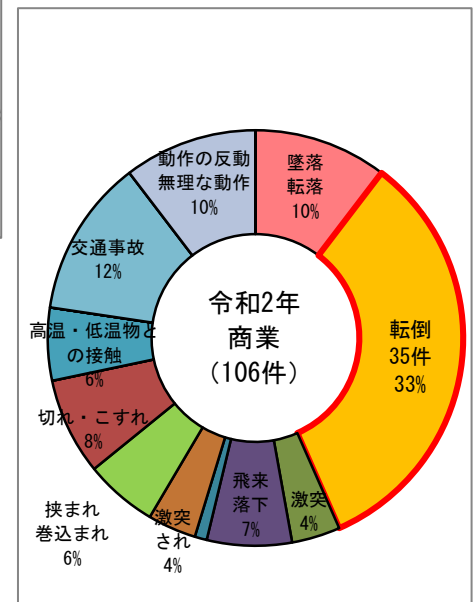
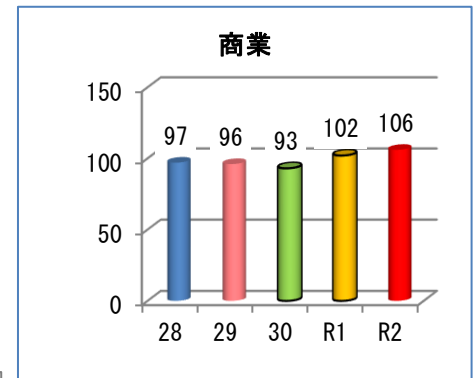
業種別では、卸売業11人、小売業87人、その他の商業8人で、商業における労働災害の多くは小売業で発生しています。

事故の型では「転倒」災害が33%と最も多く、次に「交通事故」12%、「墜落・転落」及び「動作の反動・無理な動作」がそれぞれ10%となっています。

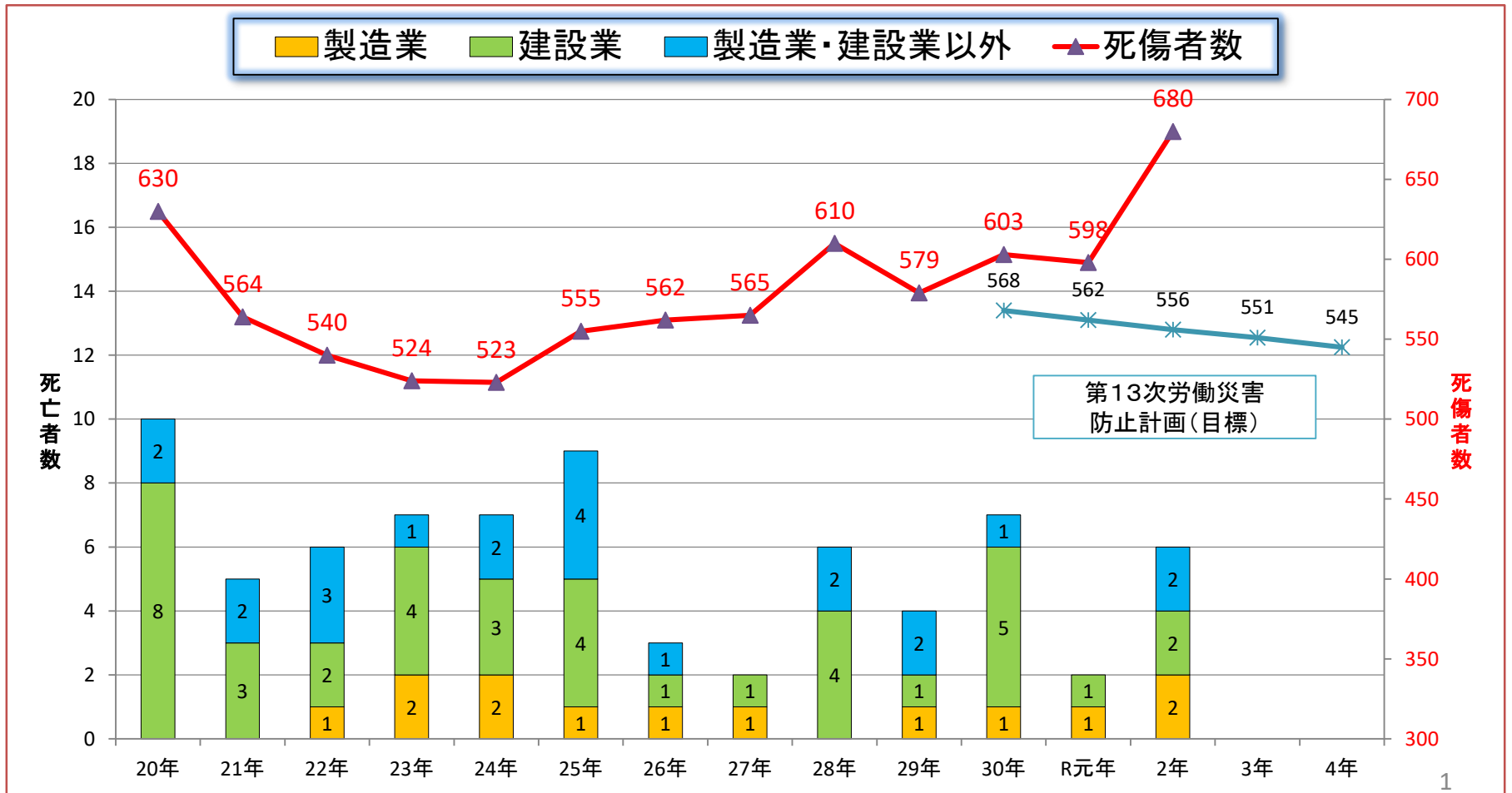
年代別では、60歳以上の災害が44%と最も多く、高い年代において災害が多く発生しています。

また、商業における転倒災害（35件）の7割が50歳以上であり、転倒災害の6割以上は休業1か月以上となっています。

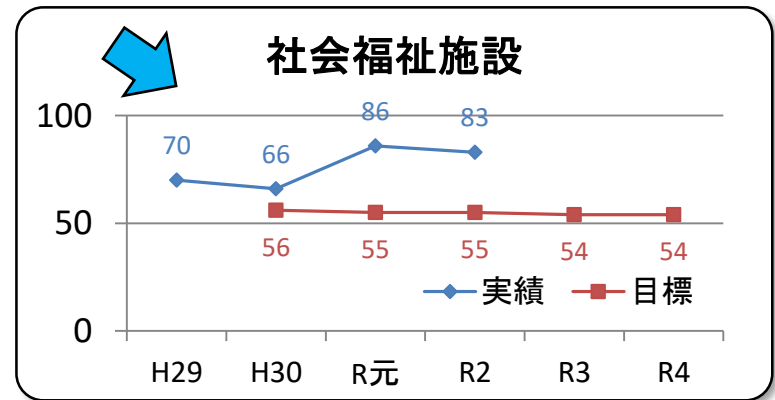
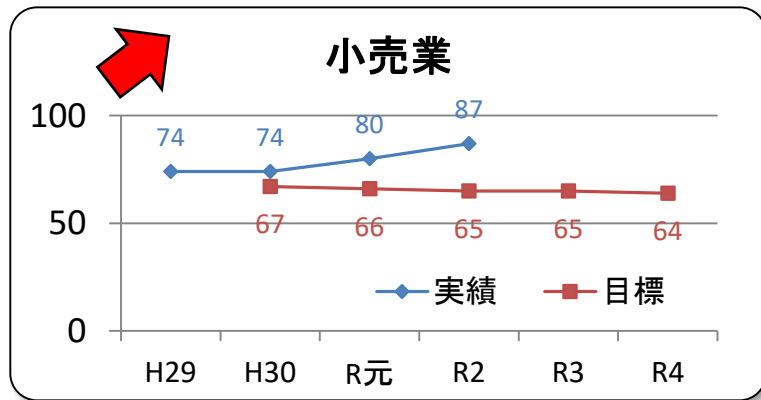
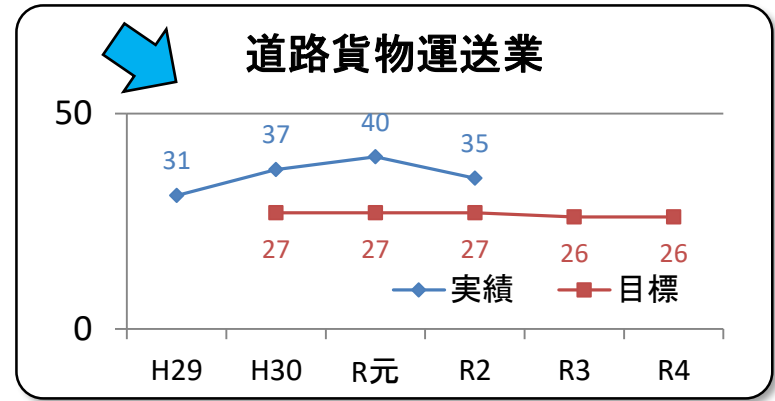
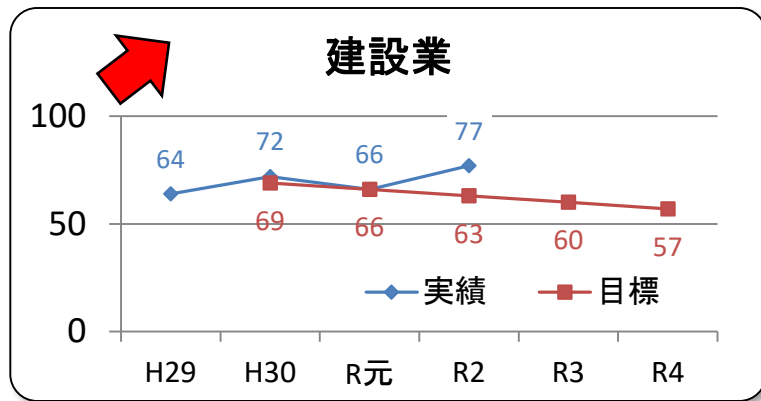
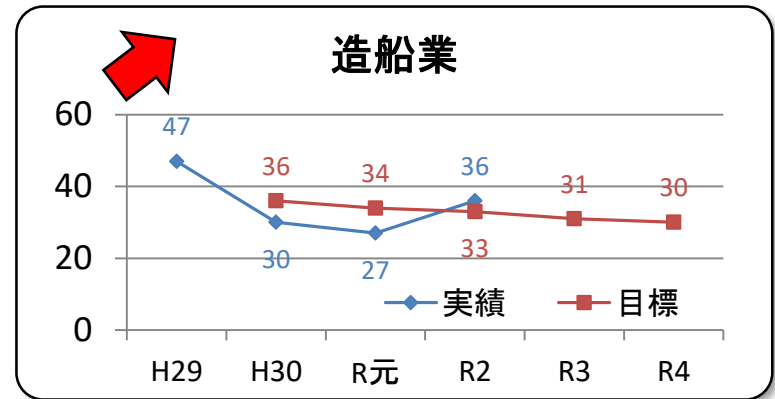
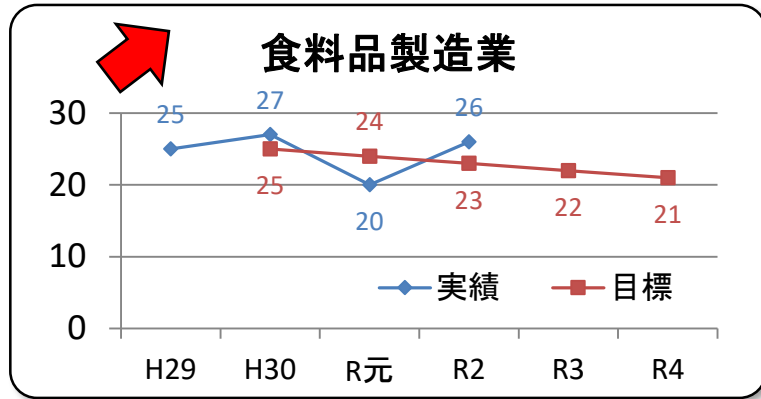
このため、売り場だけでなく、バックヤード、従業員用の通路についても整理・整頓により通路の確保を行うほか、床の凹凸や段差の解消、滑り止め対策、階段等への手すりの取り付け、照明の確保についても取り組みをお願いします。



長崎労働基準監督署管内 労働災害の推移 (休業4日以上)



第13次労働災害防止計画の目標と実績（業種別）



令和2年 死亡災害発生状況

番号	発生年月	被災者 職 種 年齢等	災害発生の概要	業種 起因物 事故の型	管轄署
1	2.1	男	被災者は港に係留中の起重機船の甲板上で、仮置きしていた鋼製の作業台(高さ5.89m)のはしご道を降りていたところ、足を掛けていたはしごの踏み棧が折れ4.75mの位置から墜落したものの。	建設業(土木)	長崎
		作業員		階段、棧橋	
		63歳		墜落・転落	
2	2.1	男	法人所有地に隣接する林道で立ち枯れた樹木(高さ約12m、胸高直径40cm)をチェーンソーを用い伐倒したところ、倒れた樹木の枝が跳ね返り、伐倒作業を行った被災者の頭部に激突したものの。	(社会福祉施設)	佐世保
		介護員		立木等	
		69歳		激突され	
3	2.1	男	建造中の船舶でタンクの水洗い作業に従事していた被災者が、マンホールからタンク内に降りていたところ、高さ約12m下のタンク底に墜落したものの。	製造業(造船業)	長崎
		洗浄工		建築物、構築物	
		59歳		墜落・転落	
4	2.2	男	業務による心理的負荷等によるもの。	その他	長崎
		現場責任者		その他の起因物	
		59歳		その他	
5	2.6	男	修繕船の船内でアイスコンバー(氷を砕く機械)の点検口の取り付け作業を行っていたところ、室内から出火し火災により死亡したものの。 (2名死亡)	製造業(造船業)	江迎
		作業員		不明	
		25歳		火災	
6	2.6	男	同 上	同 上	江迎
		作業員			
		67歳			
7	2.6	男	海上において、台船を曳航船にて岸壁へ接岸作業中、台船の端にかけていた係留ロープを取り外しに行ったところ、係留ロープとともに海へ転落したものの。	運輸交通(海運)	長崎
		作業員		その他の乗物	
		67歳		墜落・転落	

令和2年 死亡災害発生状況

番号	発生年月	被災者 職 種 年齢等	災害発生の概要	業種 起因物 事故の型	管轄署
8	2.6	女	事業場所有の自動車を運転し食材の配達中、民家の壁に衝突したものの。	商業(小売業)	対馬
		販売員		乗用車	
		67歳		交通事故	
9	2.8	男	出張作業において、車両系建設機械の修理作業を行っていたところ、停車中の積載型トラッククレーンと、移動式クレーンの上部旋回体との間に腹部を挟まれたもの。	製造業	諫早
		機械修理		移動式クレーン	
		50歳		挟まれ・巻き込まれ	
10	2.10	男	作業時に山林に立ち入った際に、病原体(リケッチア)を保有するマダニに咬まれ、日本紅斑熱を発症したものの。	建設業(建築)	佐世保
		作業員		その他の起因物	
		58歳		その他	
11	2.11	男	倉庫のスレート屋根の張り替え工事において、スレート屋根を踏み抜き、約6.3m下のコンクリート床面に墜落したものの。	建設業(建築)	江迎
		作業員		屋根等	
		68歳		墜落・転落	
12	2.12	男	工場のスレート屋根の張り替え工事で使用した足場の解体作業を行っていたところ、腐食していた既設点検台の床面を踏み抜いて約8.8m下に墜落したものの。	建設業(建築)	長崎
		作業員		通路	
		57歳		墜落・転落	
13	2.12	男	船体ブロック内において、ガス切断機を使用し一人で鋼材を切断していたところ、溶断の火の粉が作業服へ引火し、熱傷を負ったもの。	製造業(造船業)	長崎
		鉄工		ガス溶接装置	
		68		高温・低温の物との接触	

	合計	管 轄 署 別						業 種 別					
		長 崎	佐 世 保	江 迎	島 原	諫 早	対 馬	製 造	建 設	運 輸 交 通	農 林 水 産	商 業	そ の 他
令和2年	13	6	2	3		1	1	5	4	1		1	2
令和元年	9	2	3		2	2		2	4	1			2

令和2年 事業主等の死亡災害発生状況(長崎県内)

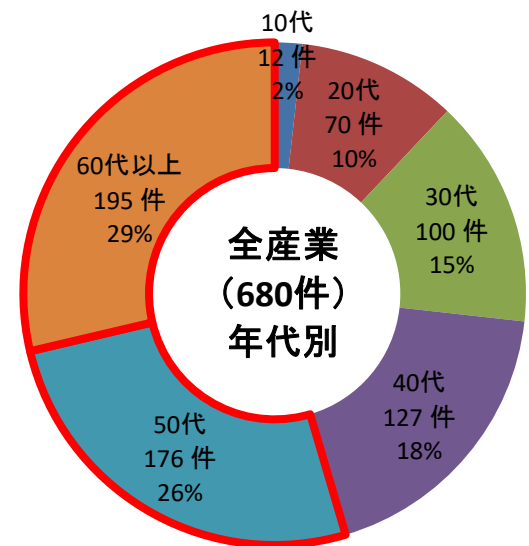
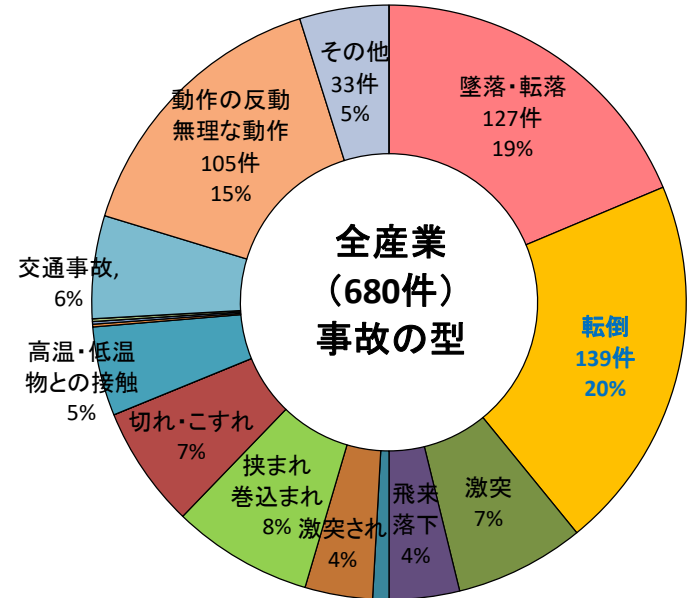
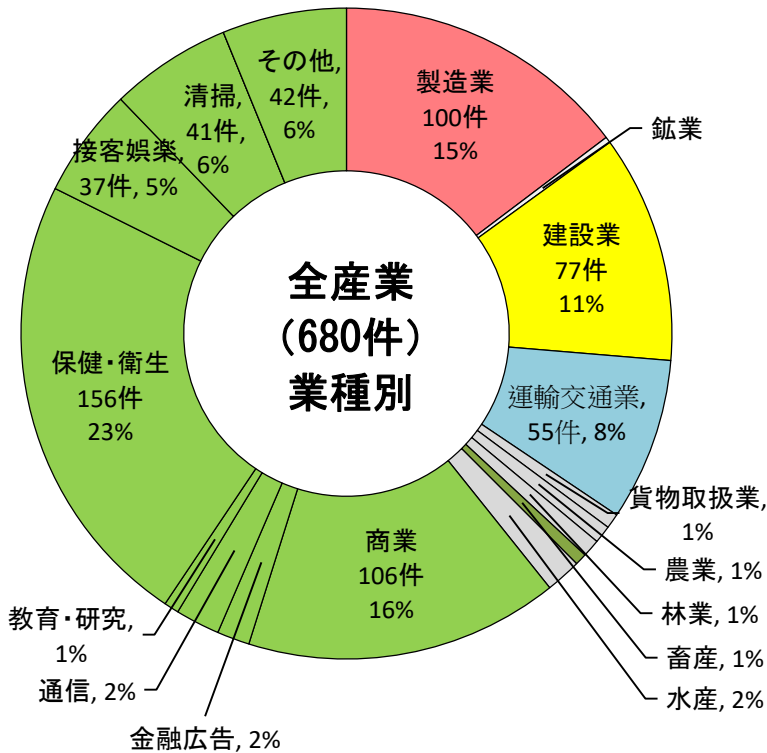
番号	発生月	事業主 一人親方	災害発生状況	事故の型 起因物	管轄署
1	5月	事業主	被災者は大工らと共に2階屋根上で断熱シートを張る作業を行っていたところ、2階屋根の端から1階屋根の梁上に墜落し死亡したものの。	墜落・転落 屋根等	諫早
2	5月	事業主	工場の屋根補修工事において、スレート屋根に上り作業を行っていた被災者が屋根の明かり取りのFRP波板を破り6.4m下の工場床に墜落し死亡したものの。	墜落・転落 屋根等	佐世保
3	5月	事業主	倉庫の改修工事において、外壁の張替え作業を高さ3.53メートルの側ブラケット足場上で行っていたところ、何らかの原因により地面に墜落したものの。	墜落・転落 足場	長崎
4	8月	事業主	屋外設備の点検・管理に伴う草刈り作業を行っていた被災者が現場で倒れているのを発見される(熱中症の疑い)。	熱中症	佐世保
5	10月	事業主	民家屋根の補修工事の依頼を受け、状況確認のため1階屋根から2階の屋根に梯子を掛けて作業者に押さえさせ、梯子を上っていたところ、地上まで転落し死亡したものの。	墜落・転落 屋根等	佐世保

令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

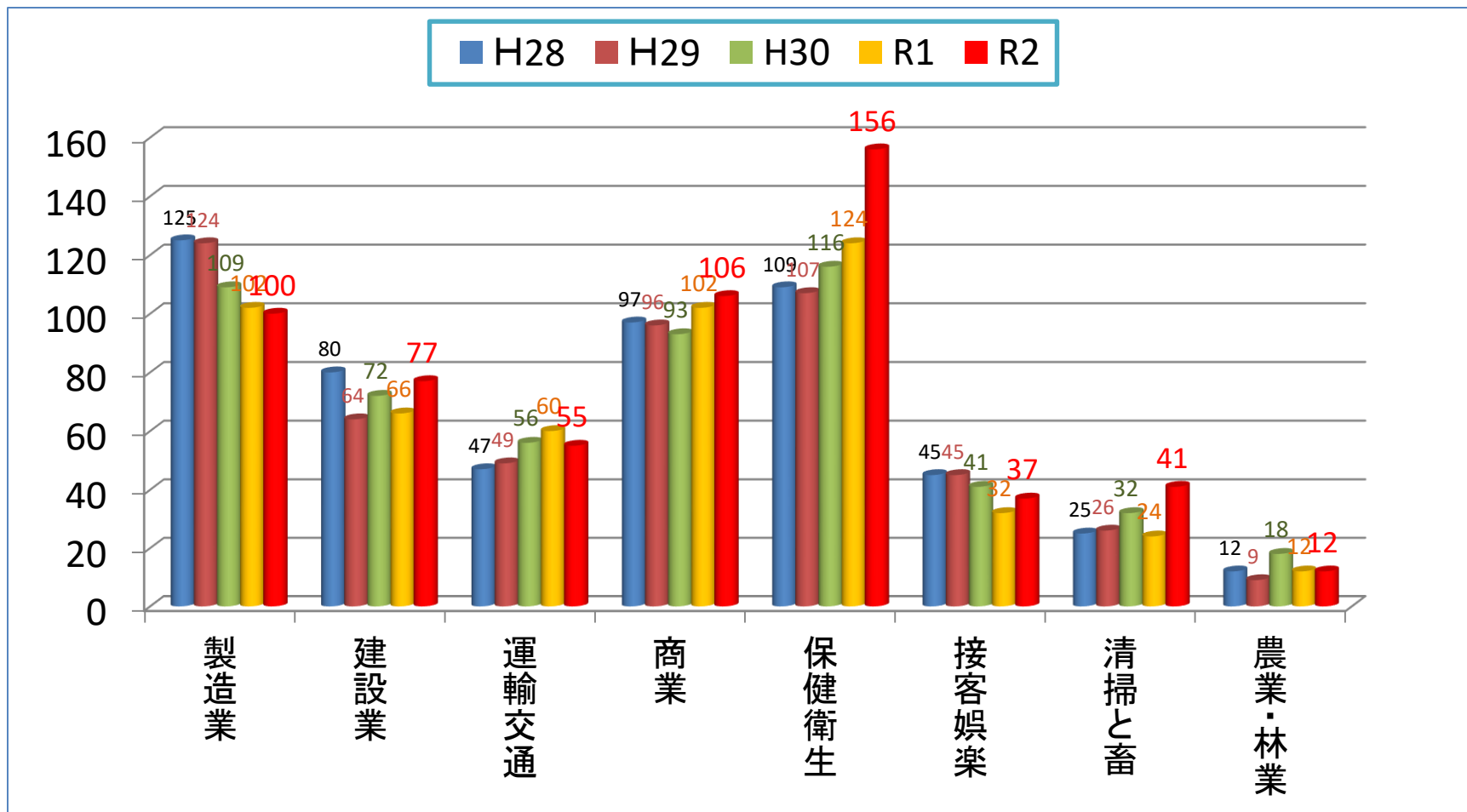
全産業

※新型コロナウイルス感染症(26件)を含む



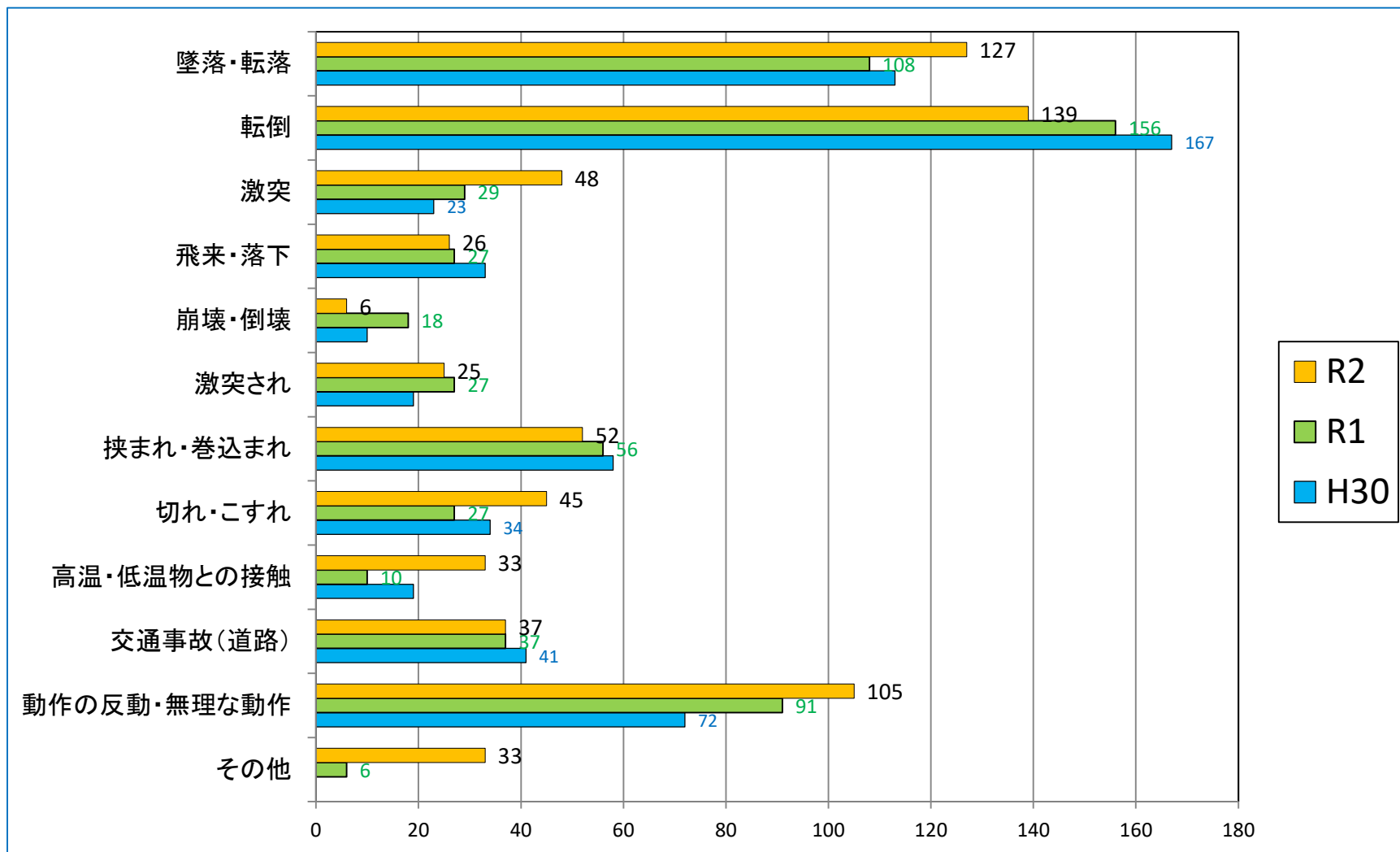
業種別 労働災害の推移 (休業4日以上)

長崎労働基準監督署



事故の型別 労働災害発生状況 (休業4日以上)

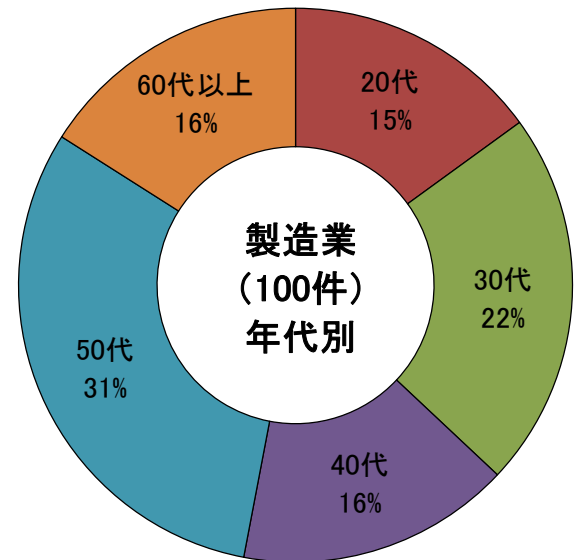
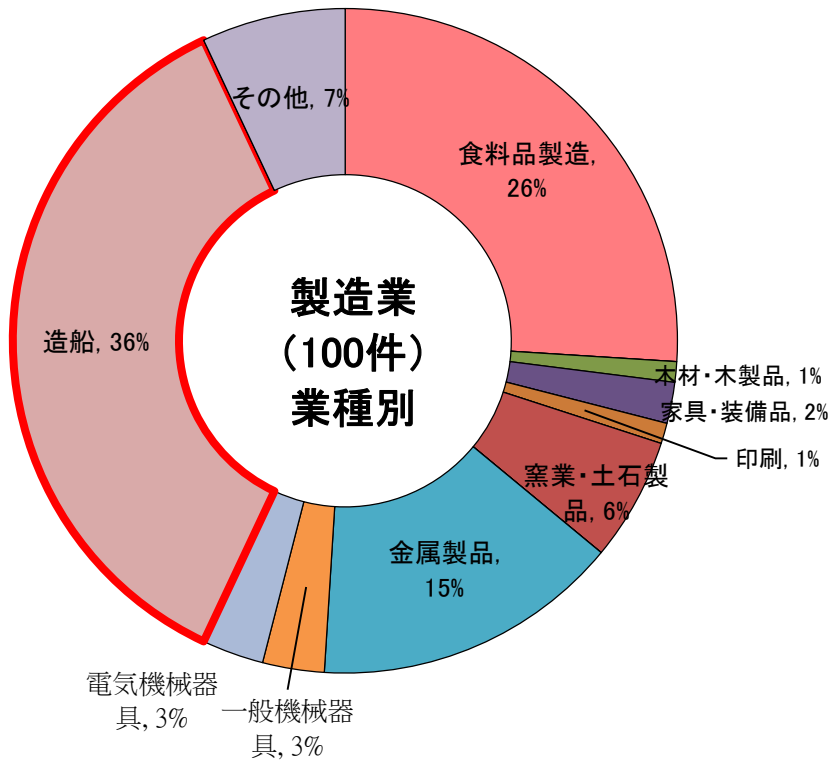
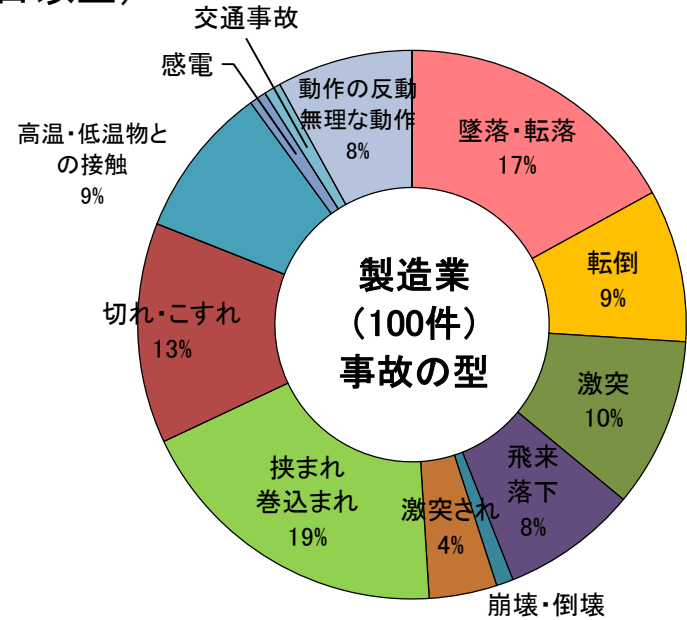
長崎労働基準監督署



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

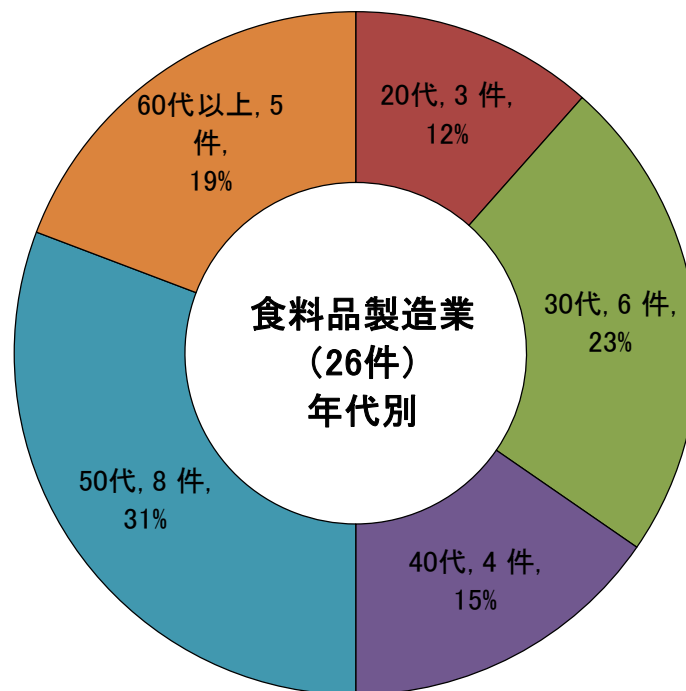
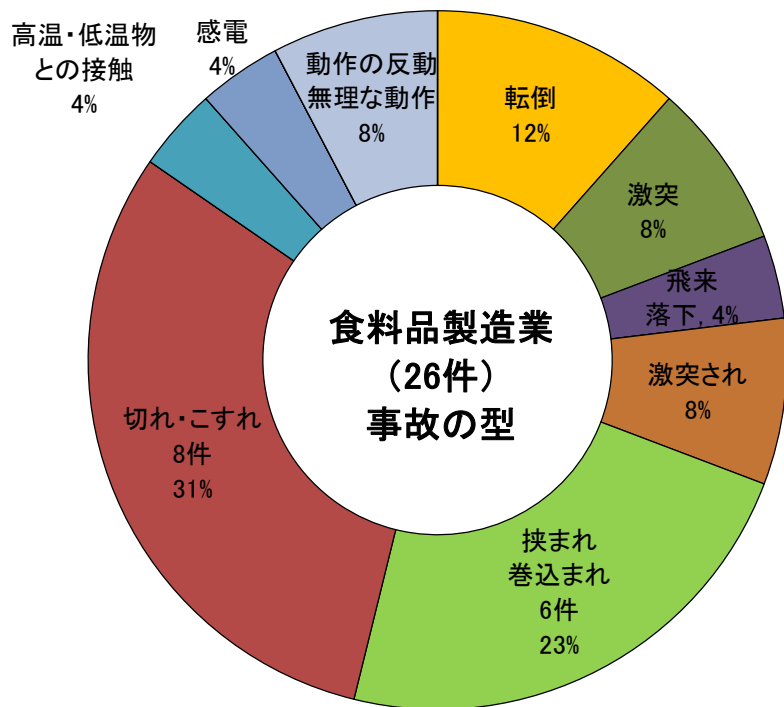
製造業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

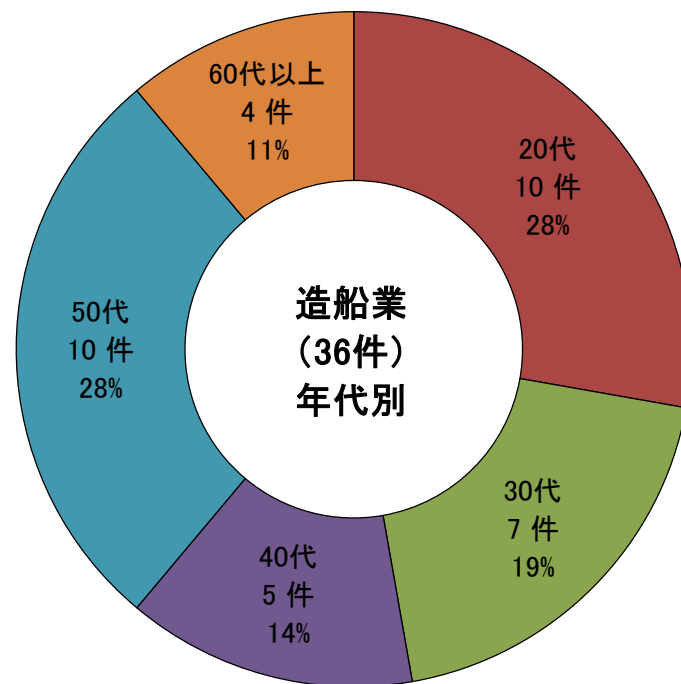
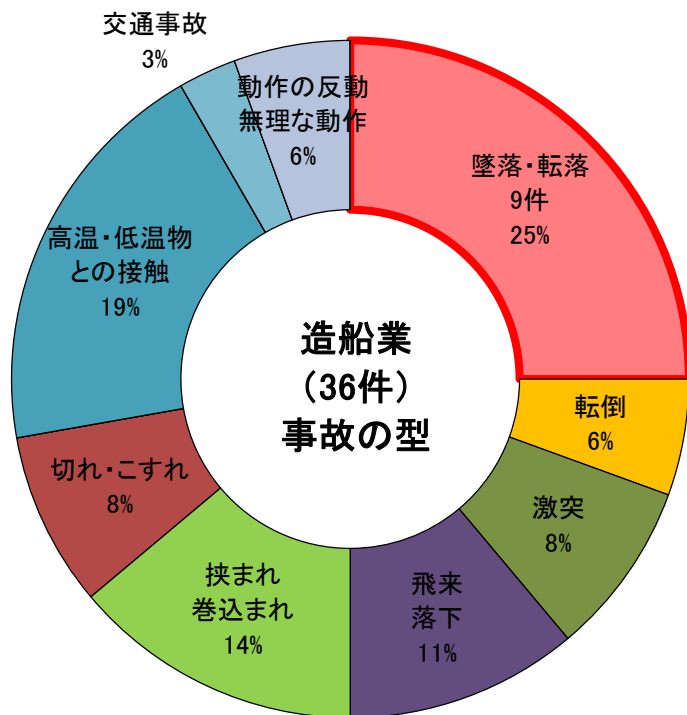
食料品製造業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

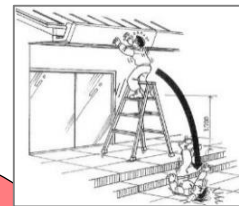
(長崎労働基準監督署)

造船業

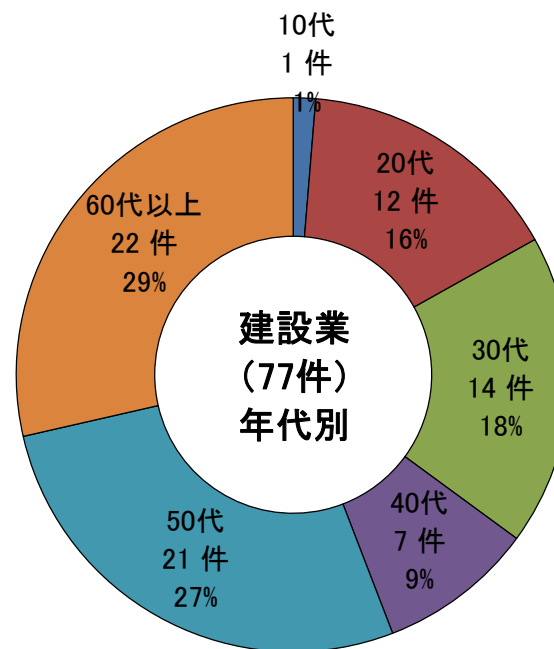
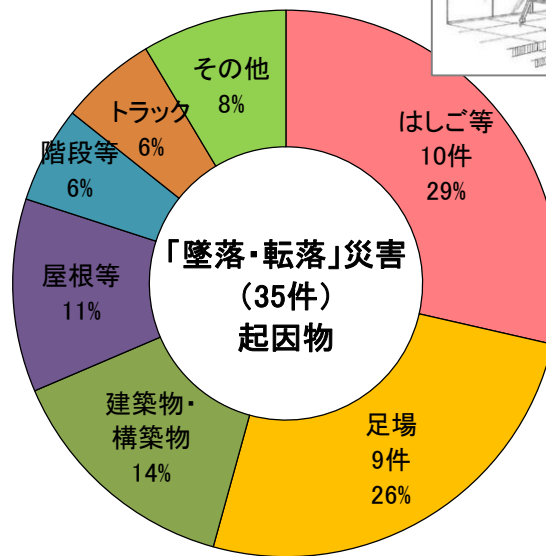
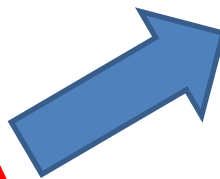
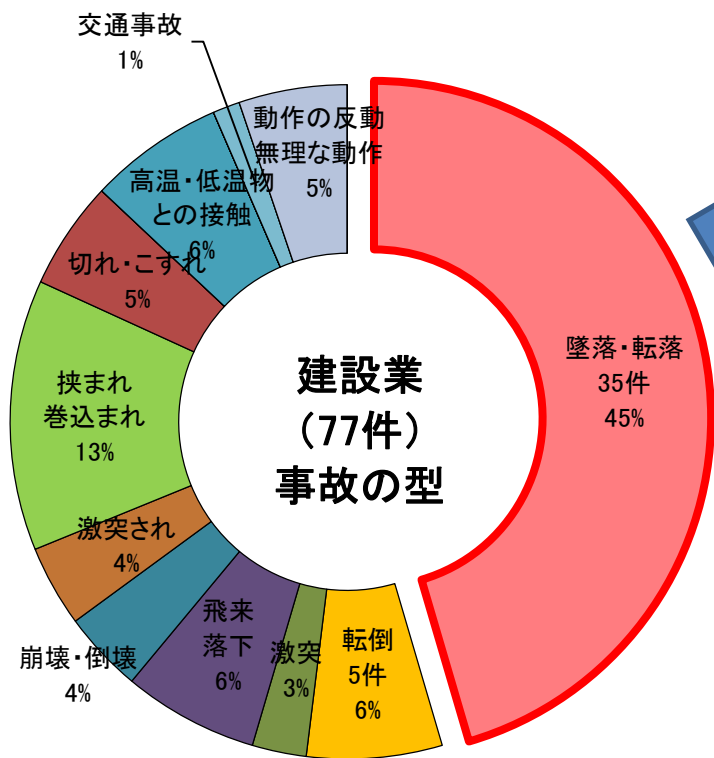


令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)



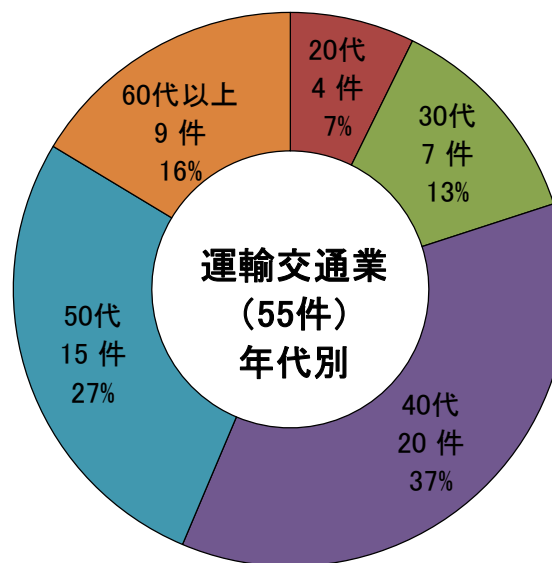
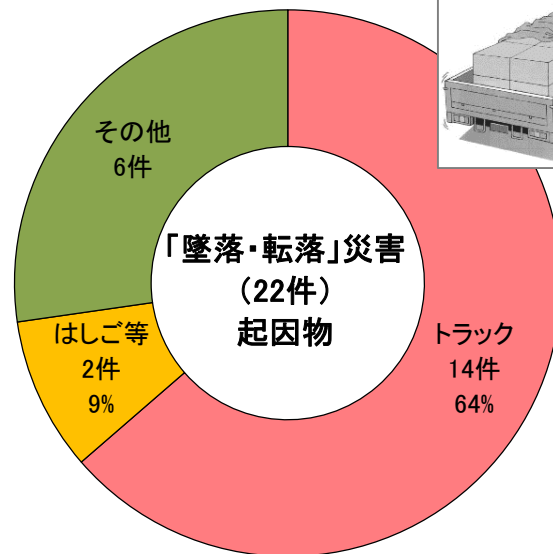
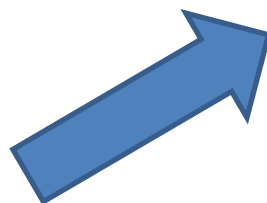
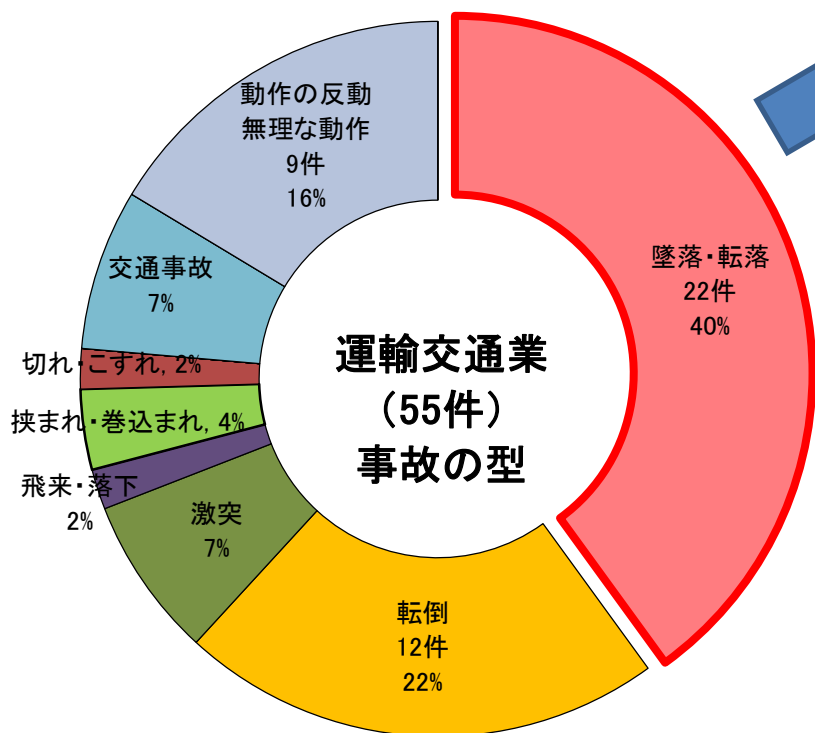
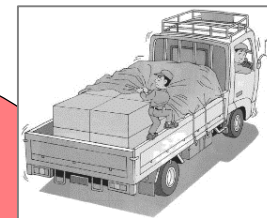
建設業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

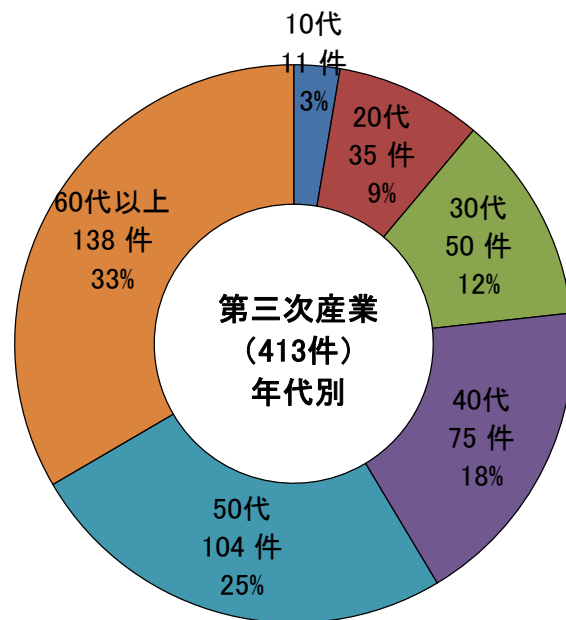
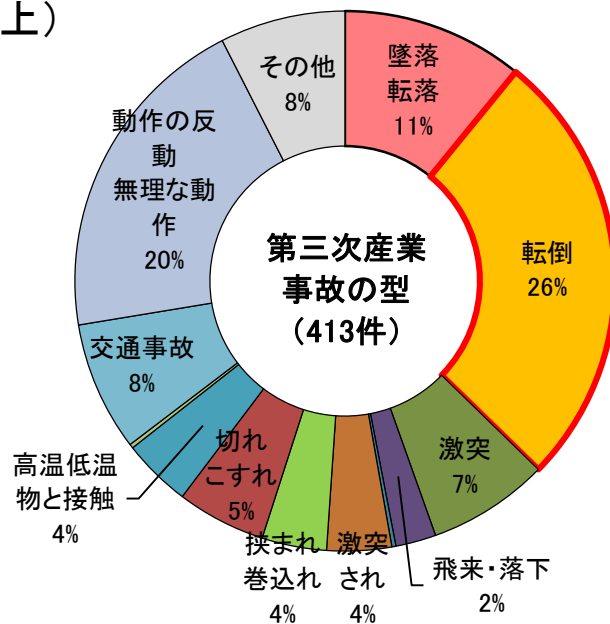
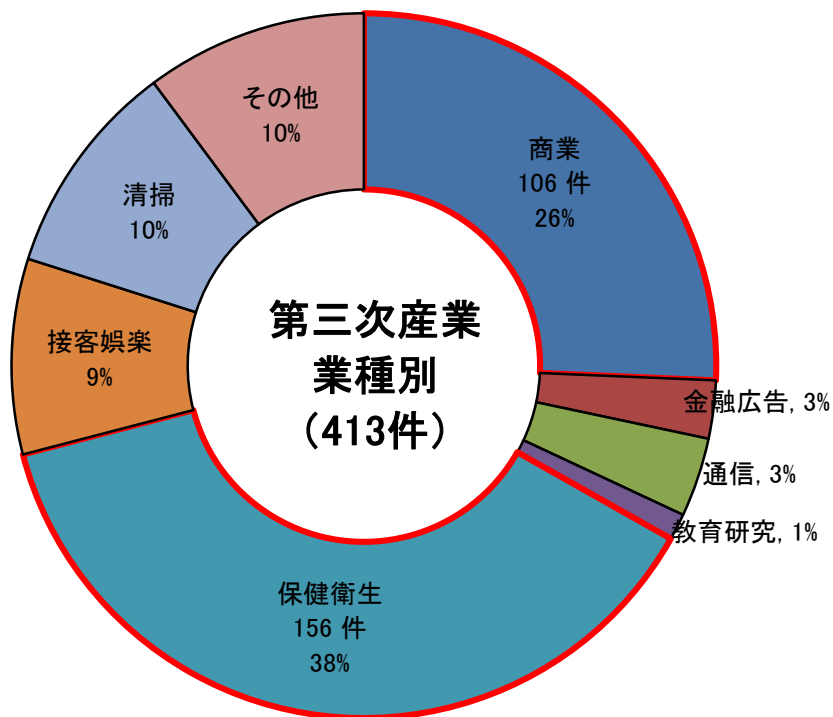
運輸交通業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

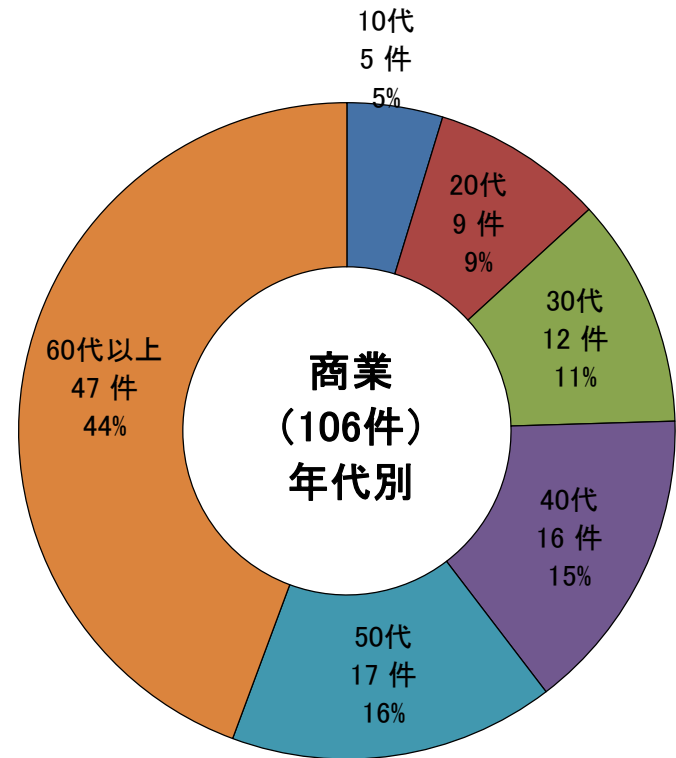
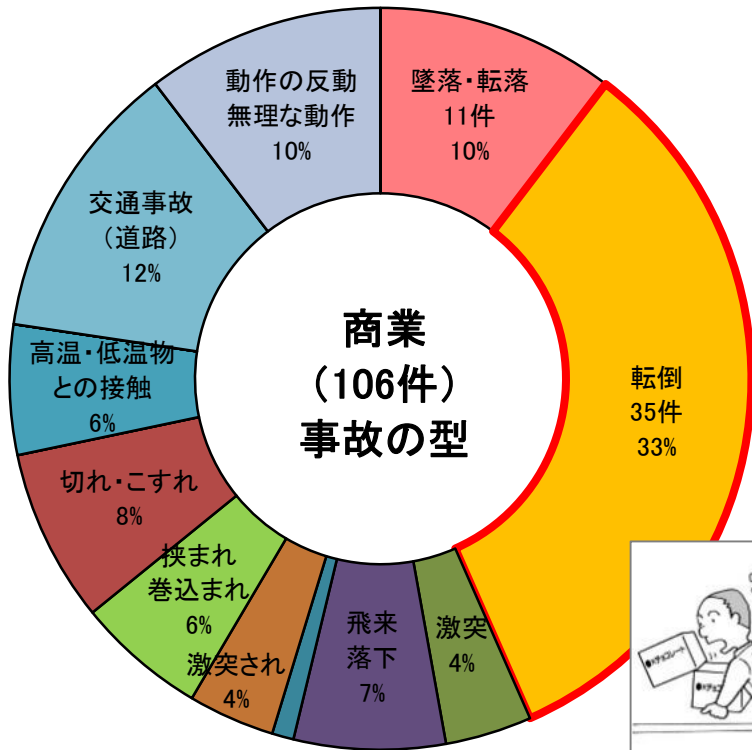
第三次産業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

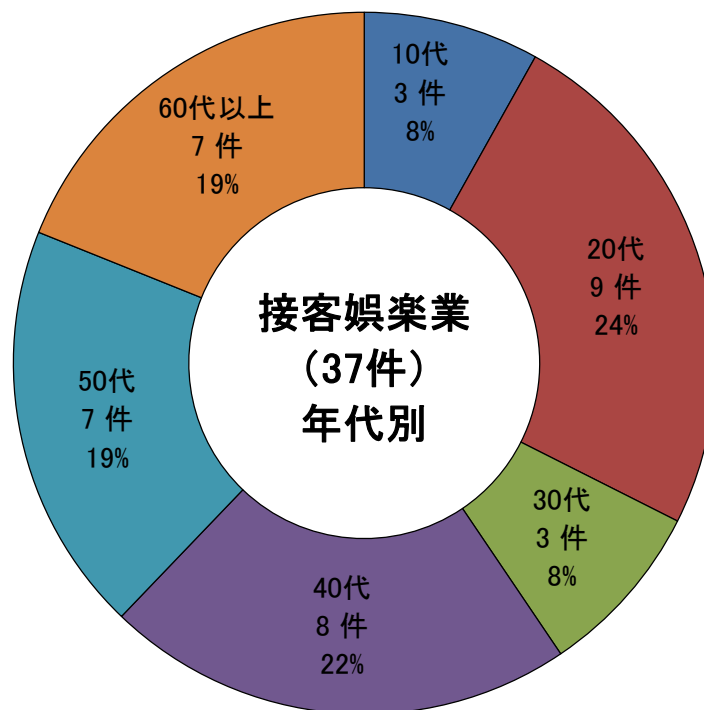
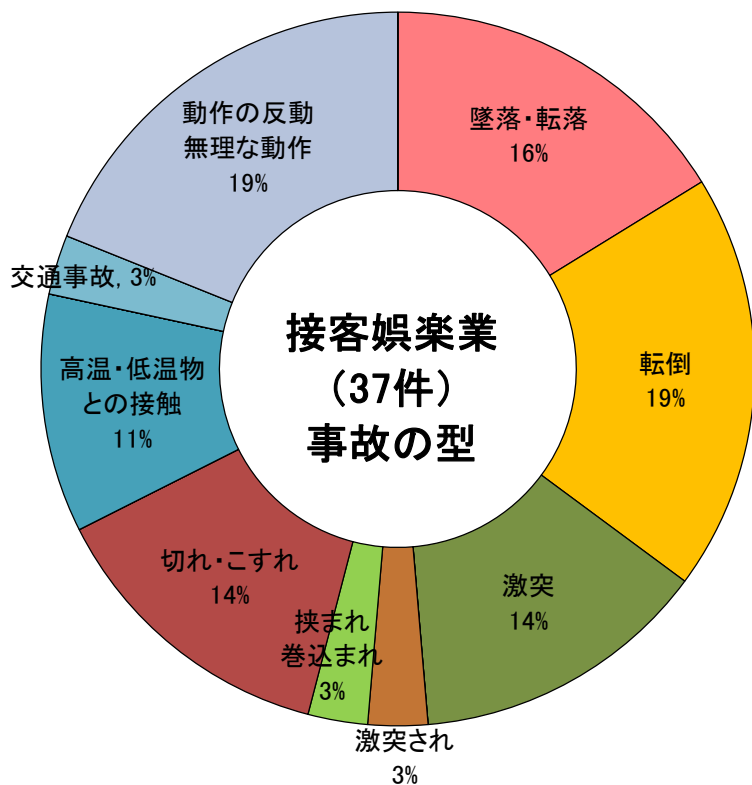
商業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

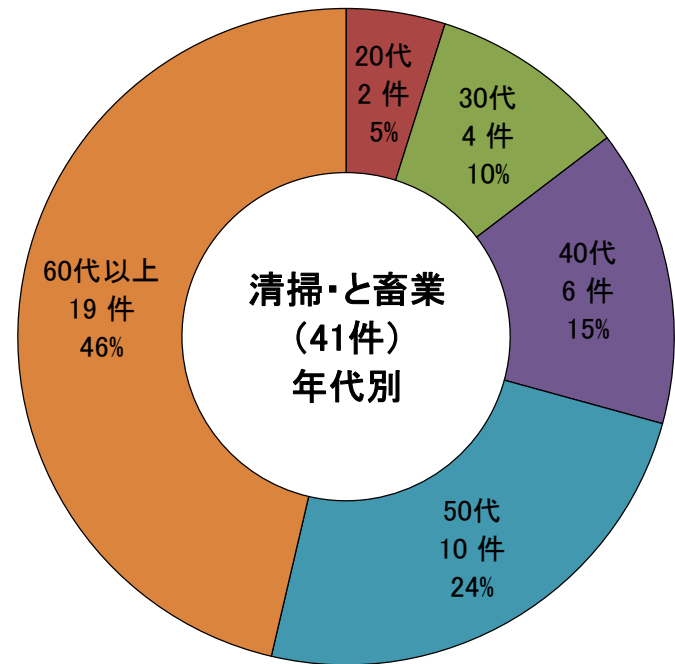
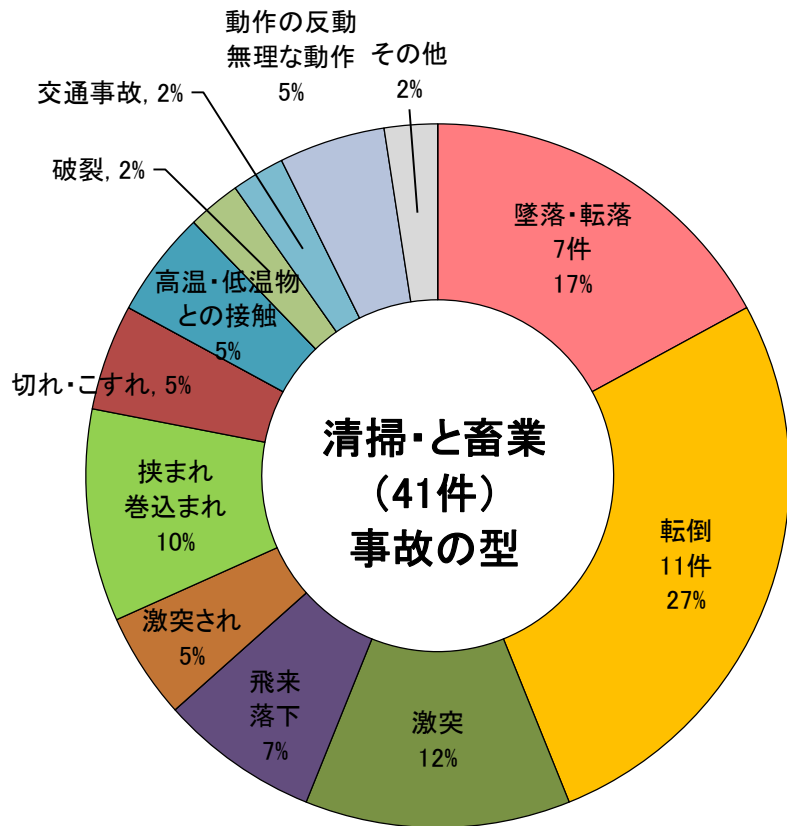
接客娯楽業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

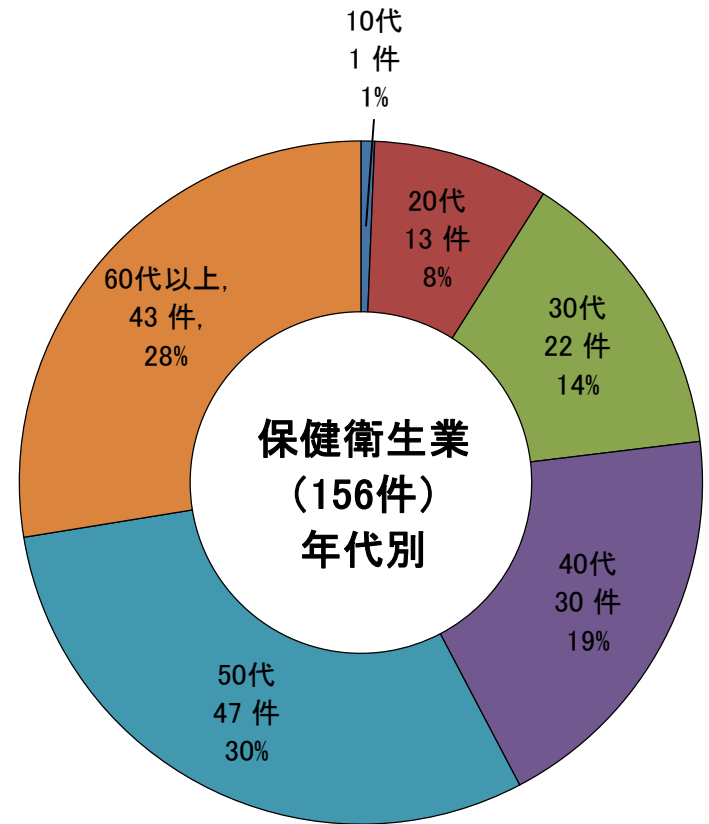
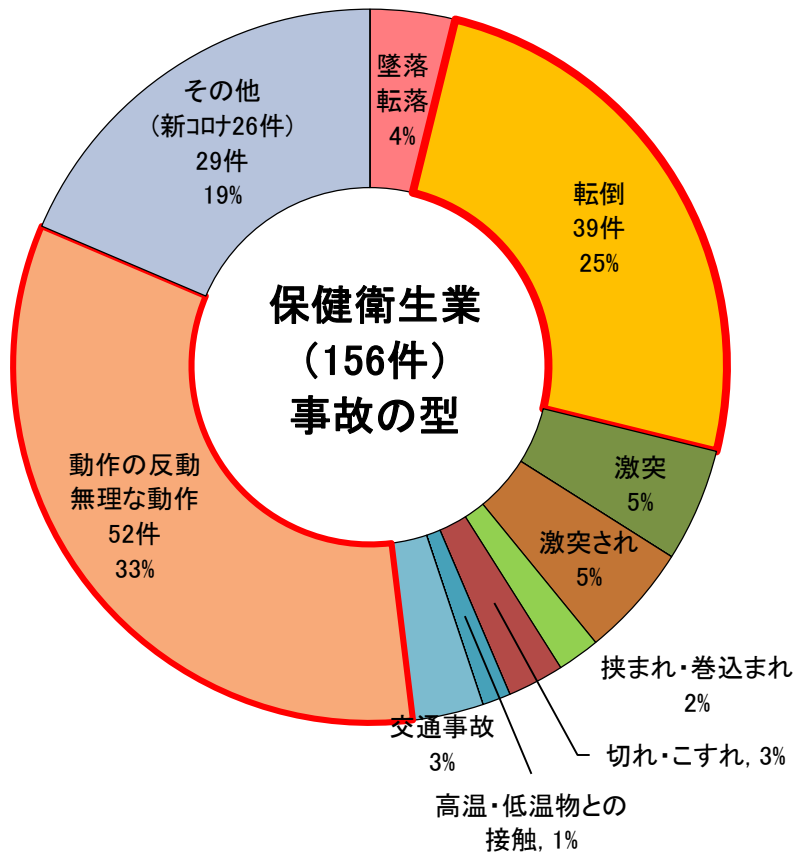
清掃業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

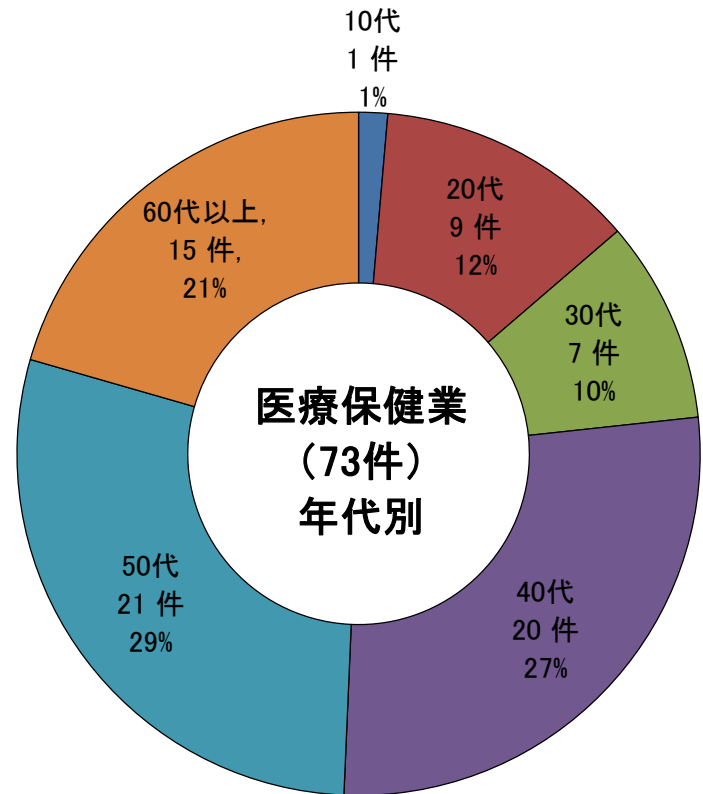
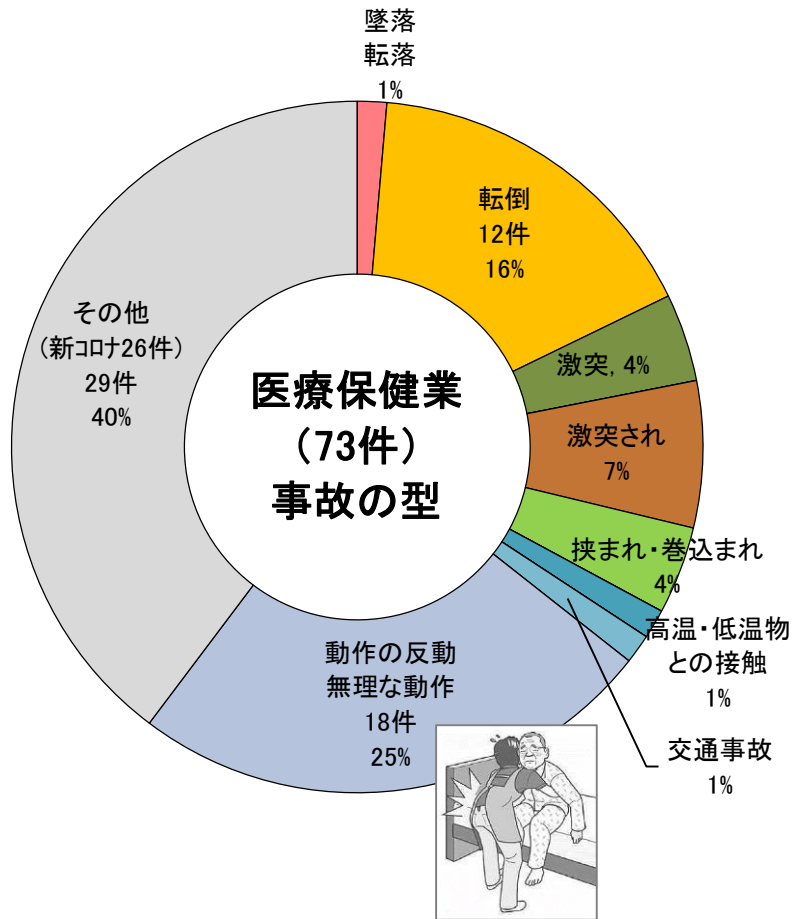
保健衛生業 (医療保健業 + 社会福祉施設)



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

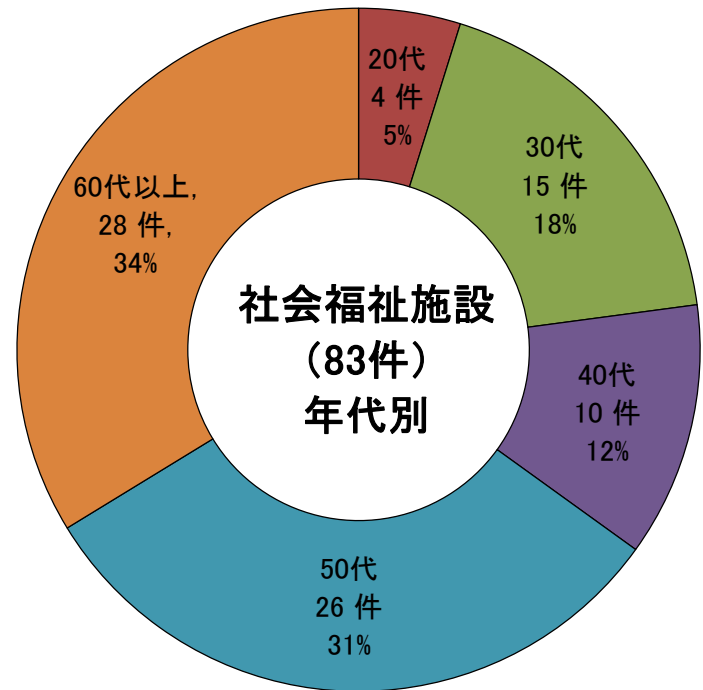
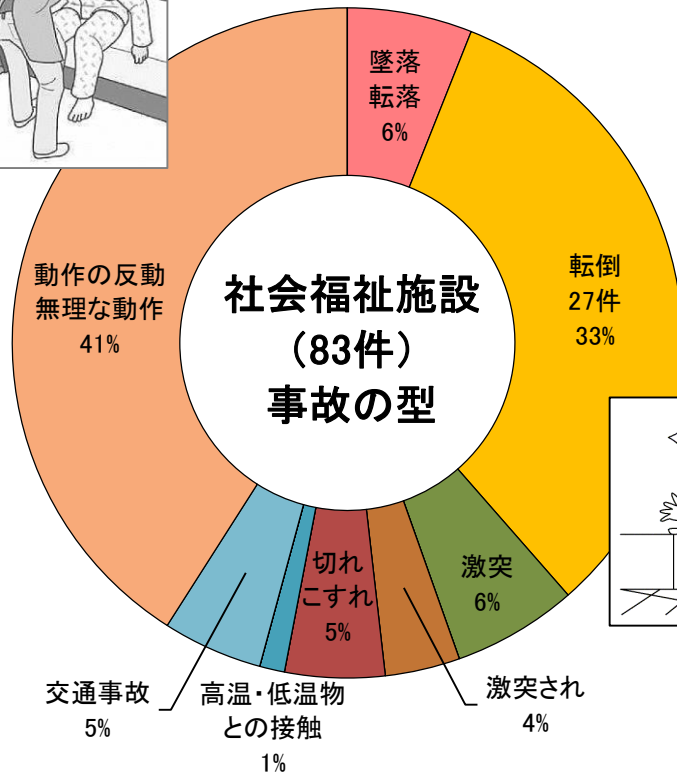
医療保健業



令和2年 労働災害発生状況 (休業4日以上)

(長崎労働基準監督署)

社会福祉施設



職場における熱中症の発生状況

熱中症は夏季の労働災害として非常に大きな問題です。

特に、建設業及び警備業などの屋外作業での熱中症による死亡災害が多いことから、屋外作業での熱中症予防について取組みの強化をお願いしています。

